

# 2022

## ANNUAL REPORT

3 2022年度の活動

5 2022年度  
対話の森TOPICS

9 代表あいさつ

10 事業紹介

24 団体概要



Dialogue Japan  
Society



# ダイアログ・ダイバーシティミュージアム 「対話の森」

見えないからこそ、みえるもの。  
聞こえないからこそ、聴こえるもの。  
老いるからこそ、学べること。

目以外の感性を使い楽しむことのできる「ダーク」では、  
見た目や固定観念から解放された対話を。  
表情やボディランゲージで楽しむ「サイレンス」では、  
言語や文化の壁を超えた対話を。  
そして「タイム」では、  
年齢や世代を超え、生き方について対話をします。

世代。ハンディキャップ。文化。宗教。民族。  
世の中を分断しているたくさんのものを、  
出会いと対話によってつなぎ、  
ダイバーシティを体感するミュージアム。

この場で生まれていく「対話」が展示物です。

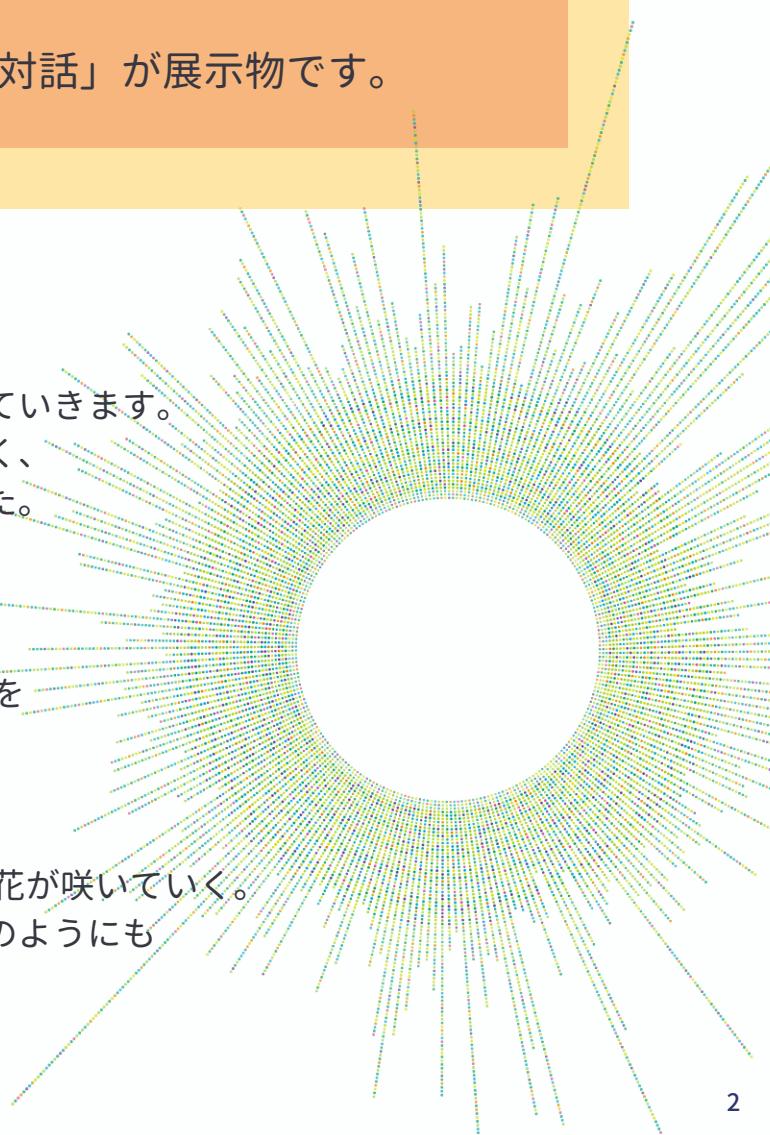
## シンボルに込めたメッセージ

この森は、対話によってはじまり、育まれていきます。  
対話の森のシンボルを、私たちだけではなく、  
あなたと一緒にかたちにしたいと思いました。

あなたにとって「対話」とは？

1300名の方から集まった「対話」への思いを  
つなぎ合わせることで、  
対話の森のシンボルが誕生しました。

会話に花が咲くように、いくつもの対話に花が咲いていく。  
それはまるで太陽のようにも、光のゲートのようにも  
見えます。  
あなたには何に見えますか？



# 2022年度の活動

2022.4	●	ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」に名称を変更
	●	昭和西川株式会社とのコラボ企画「内なる美、ととのう暗闇。」～午睡～ 開催
2022.5	●	コラボ企画展 体験型写真展「第九のきせき」開催
2022.6	●	リアル対話ゲーム「地図を持たないワタシ」のクラウドファンディングを開始
2022.7	●	リアル対話ゲーム！「地図を持たないワタシ」を7月20日より開催
	●	ダイアログ・イン・ザ・ダーク「インターンシップ2022夏」実施
	●	「内なる美、ととのう暗闇。」【涼やかなくらやみ ビール冷えています】を7月9日より開催
2022.8	●	リアル対話ゲーム！「地図を持たないワタシ」、好評につき8月14日まで会期延長
	●	ダイアログ・イン・ザ・ダーク 「オンライン・スタディ2022夏休み」開催
2022.9	●	ダイアログ・イン・ザ・ダーク「秋を感じる見えない東北の旅」を9月3日より開催
	●	「ダイアログ・イン・サイレンス ウィンター2022」アテンドスタッフ及びサイレンスインタープリター（SI）募集を開始
2022.10	●	奇跡の7本指のピアニスト 西川悟平による、ダイアログ・チャリティーコンサート
	●	10月8日(土)～11月27日(日)身体感覚を磨こう！ダイアログ・イン・ザ・ダーク、秋のまくら大運動会
	●	感染対策防止基本方針を更新
	●	アテンドスクール 第2期 開講
2022.11	●	株式会社ポーラによる、ダイアログ・イン・ザ・ダークとダイアログ・イン・サイレンスアテンドのための「メークレッスン」開催

2022.12	<p>「クリスマス・イン・ザ・ダーク」12月3日より開催</p> <p>「ダイアログ・イン・サイレンス ウィンター2022」12月10日より開催</p> <p>奇跡の7本指のピアニスト 西川悟平による、ダイアログ・クリスマス チャリティーコンサート</p> <p>特別企画「めぐる・イン・ザ・ダーク～漆黒の中で漆器を味わう～」開催</p> <p>ダイアログからの「ムービー・クリスマス・カード」を配信 音のない世界と灯のない世界に住む2人のコラボによる企画</p>
2023.1	<p>ダイアログ・イン・ザ・ダーク 「内なる美、ととのう暗闇。」『五感』1月14日より開催</p> <p>「LOVE IN THE DARK」「LOVE IN SILENCE」を1月21日（土）から開催</p> <p>日本財団電話リレーサービスとのコラボ企画「サイレンスの案内人と、電話でおしゃべりしよう。」1月、2月に開催</p>
2023.2	<p>TBS日曜劇場『ラストマンー全盲の捜査官ー』にダイアログが全盲書き指導として協力することを公表</p> <p>ダイアログ・イン・ザ・ダーク「インターンシップ2023春」実施</p>
2023.3	<p>そうだ 暗闇、行こう！ 目以外の感覚を使って旅を楽しむ「まくらの中の電車に乗って感覚の旅へ！」3月21日より開催</p> <p>新型コロナウイルスマスク規制の緩和</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策についてのお知らせとして「マスクの着用について」の規制を緩める方針を発表</p> <p>TBS系日曜劇場「ラストマンー全盲の捜査官ー」とのコラボイベント『ラストマン・イン・ザ・ダーク』開催決定を発表</p>

# 2022年度 対話の森 TOPICS

## TOPICS 1

### 名称を「ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」に変更

ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」は世代、ハンディキャップ、文化、宗教、民族といった、世の中を分断しているたくさんのものを、出会いと対話によってつなぎ、ダイバーシティを体感するミュージアム。

世の中にさらにダイバーシティを深めていく場として、2022年4月より、ダイアログ・ミュージアム「対話の森」の名称を、  
ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」といたしました。

## TOPICS 2

### 企業、他団体とのコラボ企画を開催

2022年度からは、ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」では、  
ダイアログ・イン・ザ・ダーク、ダイアログ・イン・サイレンス以外に、  
企業やほかの団体と協働するコラボレーション企画を数多く開催。

SDGsが目指す世界の未来像「世代を超えて すべての人が 自分らしく生きられる社会」の実現に向けて、誰もが対等に対話ができる場として、「対話の森」が活かされる企画となりました。

2022年

昭和西川株式会社とのコラボ企画  
「内なる美、ととのう暗闇。」～午睡～（神宮外苑会場）

一般社団法人El Sistema Connectによる  
ホワイトハンドコーラスNIPPON の活動を表した写真家 田頭真理子氏撮影の  
体験型写真展「第九のきせき」（竹芝会場）

株式会社ポーラによる  
ダイアログ・イン・ザ・ダークとダイアログ・イン・サイレンス  
アテンドのための「メークレッスン」開催

2023年

「めぐる・イン・ザ・ダーク～漆黒の中で漆器を味わう～」（竹芝会場）

日本財団電話リレーサービスとのコラボ企画  
「サイレンスの案内人と、電話でおしゃべりしよう。」（竹芝会場）

# FACTBOOK 2023

# CONTENTS

- |    |                      |
|----|----------------------|
| 9  | 代表あいさつ               |
| 10 | 事業：3つのソーシャルエンターテイメント |
| 16 | 事業：企業・社会との協働や連携      |
| 18 | 事業：子ども・学校への取り組み      |
| 20 | 事業：障害者雇用・育成と実態調査・研究  |
| 22 | サポーター制度              |
| 24 | 団体概要・沿革              |

## TOPICS 3

# 新企画「リアル対話ゲーム 『地図を持たないワタシ』」



「対話の森」が新たな対話のカタチに挑戦した、期間限定の新ソーシャルエンターテイメントとして

「リアル対話ゲーム『地図を持たないワタシ』を開催（プロデューサー／大橋弘枝）。

様々な個性を持つキャストとともに、「宇宙船スクランブル号」の中でゲームにトライして、それぞれがもつ「地図」＝固定観念を取り払っていくという体験型イベント。

キャストは、聞こえない人、見えない人、車椅子ユーザー、

義手、義足、低身長、LGBTQといった人と、実際に出会い、「誰も取り残さない」を合言葉にコミュニケーションすることで「ダイバーシティ」を体験するプログラム。

好評につき会期を延長し、1000人を超えるゲストが体験しました。

## TOPICS 4

# 第2期アテンドスクール、 インターンシップ

## アテンドスクール

アテンドスクールでは、アテンドとして必要なマインドやスキルの基礎を短期間で習得し、近い将来ダイアログ・イン・ザ・ダークで働くことを目指します。

目を使わないからこそ、優れた感覚と思考を持つダイアログ・アテンドを日本中に増やすべく、これまで培ってきたアテンド養成のノウハウをもとに、2019年秋から開催された第1期に続く第2期アテンドスクールを、2022年度に開講しました。

受講生の一部は「対話の森」で活躍するとともに、ダイアログ・アテンドの道を選ばなかった方々も、社会で活躍しています。



## インターンシップ

「対話の森」で実際にともに「働く」体験を通して、自分の将来の可能性を探す機会となるプログラム。

「昔と比べると、世の中には目が見えなく『ても』できる仕事が増えてきました。

しかし、目が見えないから『こそ』、できる仕事は決して多くありません。

私達、視覚障害者のアテンドたちは、見えない(目を使わない)ことを自分が持っている能力として活かしながら働いています。」（募集サイトより）

# 目の前の社会課題を 対話と ソーシャルエンターテイメントで 解決する

わたしたちが暮らすこの社会において、最も大切にしなければならない財産は、「人」だと思っています。

社会的資本である「人」を生かしきるために、それぞれの個性や文化、立場を認め合い、尊重しなくてはなりません。そこには、おたがいを認め合うための「対話」が必要になります。しかしながら現在、地域社会、学校、企業、家庭……さまざまな場において、コミュニケーションが圧倒的に不足し、「人」の可能性も低下していると感じています。

一人ひとりが、対等に対話し、協力し、信頼し、安心して社会参加することのできる、多様で豊かな社会の形成と、発展のために、この事業に取り組んでいます。

一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ



# 代表あいさつ

ダイアログ・イン・ザ・ダークを初めて体験したとき、暗闇で迷子になりました。足元には藪が茂り、道が見つからない。他の参加者の声が遠くのほうで聞こえます。声を出して助けを求めるべいいのに、迷惑をかけてはいけないとと思うと、言葉が出ませんでした。

そのときです。誰かがわたしの手を取り「こっち」と道を示してくれました。

その手の持ち主は、暗闇のなかの案内人、アテンドでした。

「どうしてわたしが迷子だと分かったの？」と聞くと、「迷子の音がしたから。衣擦れの音が小刻みになって、白杖をつく音が変わったもの」というのです。

視覚とは異なる力、音を観るその力に驚きました。

「街や駅で、自分がどこにいるのか、分からなくなるときがあるんです。

でもそんなとき、たくさんの方が助けてくださる。わたしたちは、きっと誰よりも、人の温かさを知っています」—。

そう、彼らは日常的にこうした体験を繰り返していたのです。ふだんの生活では気づくことのできない「大切なこと」を、このとき教わりました。

暗闇の中で自分の知らない文化を持つ人と出会ったわたしのように、ダイアログを訪れてくださった方に、ダイバーシティの扉を開けていただけたらと願っています。未知との遭遇は想像以上に豊かで、楽しく、感動に溢れています。

そして、わたしたちは、その先に訪れる社会を見たくてこの活動を続けています。

それは、声をかけあい、助け合い、誰もが自分の能力を生かすことのできる、そんな社会の実現につながると信じているからです。

2017年から、音のない世界で生きる聴覚障害者と「ダイアログ・イン・サイレンス」を、そして2019年から高齢者と「ダイアログ・ウィズ・タイム」をスタートしました。「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」と併せ、3つのエンターテイメントを通して、新たな一步を踏み出せたことに大きな喜びを感じるとともに、ダイアログを応援くださる方々に、心より感謝申し上げます。

一般社団法人 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ  
代表理事 志村季世恵

## 志村季世恵プロフィール

一般社団法人 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ代表理事

バースセラピスト

こども環境会議 代表 ダイアログ・イン・ザ・ダーク 理事

バースセラピストとして、人の誕生から臨終までを含めた  
延べ4万人を超えるカウンセリングを行う。

妊婦や子育てに悩む母、心にトラブルを抱える人をメインにカウンセリング。その活動を通して『こども環境会議』を設立。1999年からはダイアログ・イン・ザ・ダーク理事となり、多様性への理解と世の中に対話の必要性を伝えている。また、末期がんを患有方へのターミナルケアは独自の手法を以て本人や家族と関わり、その方法は多くの医療者から注目を浴びている。ワークショップ、ファシリテーションの日本での第一人者であると共に人を幸せにする商品企画開発を通販会社とタイアップし展開。ロングラン商品開発に定評がある。講演、ワークショップなど多数。2男2女の母。

## 主な著書：

- 「さよならの先」「いのちのバトン」（講談社文庫）
- 「大人のための幸せレッスン」（集英社新書）「ママ・マインド」（岩崎書店）
- 「親と子が育てられるとき」（内田也哉子共著・岩波アクティブ新書）等
- 「まっくらな中での対話」（講談社文庫）脳科学者茂木健一郎氏と暗闇での対談





# DIALOGUE IN THE DARK

目以外のなにかで  
ものをみたことがありますか？



この場は完全に光を閉ざした“純度100%の暗闇”。

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、視覚障害者の案内により、完全に光を遮断した”純度100%の暗闇”の中で、視覚以外の様々な感覚やコミュニケーションを楽しむソーシャル・エンターテイメントです。

1988年に、ドイツの哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案によって生まれたこ万プログラムは、これまで世界47カ国で開催され、900万人を超える人々が体験。

日本では、1999年11月の初開催以降、これまで24万人以上が体験しています。暗闇での体験を通して、人と人とのかかわりや対話の大切さ、五感の豊かさを感じる「ソーシャルエンターテイメント」です。

<https://did.dialogue.or.jp/>

創設（1988）ドイツの哲学博士

アンドレアス・ハイネッケ

開催実績 世界50カ国以上

体験者数 800万人超

日本開催（1999）11月初開催

体験者数 258,893人 ※2023年3月末時点

会場

（2009）東京・外苑前会場常設

（2013）大阪「対話のある家」常設

（2017）東京・浅草橋会場へ移転

（2019）東京・神宮外苑会場

「内なる美、とのう暗闇」常設

（2020）東京・竹芝

ダイアログ・ミュージアム

「対話の森」常設

（2021）大阪「対話のある家」閉館

►2023年4月現在

東京・竹芝「対話の森」開催中

東京・神宮外苑「内なる美、とのう暗闇」開催中



今、コロナで周りの人との実質的な距離だけではなく、心の距離や壁ができるていると思うのですが、暗闇の中でこんなにも人の存在があたたかいものかと思えたのが嬉しかったです。 (40代・女性)

想ぞうできるので、いつも目が見えるよりは、目が見えていない方が得しているんじゃないのか?と初めて思いました。 (8歳・女の子)

導いてもらうってとても心地良いですね。何でも自分で決めて、自分が行動できる時代だからこそ、ゆだねる心地よさが価値になることを再確認させていただきました。 (男性)

不思議と人の距離が普段と違う感じに。心が落ち着きました。 (男性)



DIALOG  
IN THE  
DARK

「暗闇で再会しよう」  
コロナ禍における  
ダイアログ・イン・ザ・ダーク



これまでダイアログの暗闇では「人と人が実際に触れあう」ことでそのあたたかさを感じていただいていました。

コロナ禍ではどうしても密になりがちであったため、「ダーク」運営を中止、明るいところで視覚障害者とともに対話する「ダイアログ・イン・ザ・ライト」として運営を続けながら、1年間の準備期間を経て、暗闇で心地良い距離（ソーシャルディスタンス）をとりながら冒険できる、新たな体験型ソーシャルエンターテイメントとして生まれ変わりました。

声や音、あらゆる感覚に着目しながら、人と人とのかかりわり、つながりをどう育み、保っていくのかを体感していく。身体的距離が必要なwithコロナ時代だからこそこのプログラムです。



# DIALOGUE IN SILENCE

## 言葉の壁を超えて、 人はもっと自由になる

DIALOGUE  
IN  
SILENCE™

音のない世界で、言葉の壁を超えた対話を楽しむ  
エンターテイメント、  
それがダイアログ・イン・サイレンス。

静寂の中、体験を案内するのは音声に頼らず対話をする  
達人、聴覚障害者のアテンドです。  
参加者は、音を遮断するヘッドセットを装着。  
音のない世界で、集中力・観察力・表現力を高め、  
解放感のある自由さを体験し、音や声を出さず、互いにコ  
ミュニケーションをとる方法を発見していきます。  
たとえ母国語の異なる人であっても、サイレンスの世界で  
は、想像以上の交流が深まります。  
1998年にドイツで開催されて以降、フランス、イスラエル、  
メキシコ、トルコ、中国でも開催。  
これまで世界で100万人以上が体験しています。日本では  
2017年の初開催以来、約16,000人が体験しました。

<https://dis.dialogue.or.jp/>

創設（2005）ドイツの哲学博士  
アンドレアス・ハイネッケ  
開催実績 フランス、イスラエル、  
メキシコ、トルコ、中国  
体験者数 100万人以上

日本開催  
(2017) 短期開催  
(2018) 短期開催  
(2019) 短期開催  
(2020) 東京・竹芝  
ダイアログ・ミュージアム  
「対話の森」常設（期間限定開催）

体験者数19,330人 ※2023年3月末時点

東京・竹芝「対話の森」にて  
2021年12月～2022年2月 開催  
2022年12月～2023年2月 開催  
2023年12月 再開予定

言葉の壁を超えて、人はもっと自由になる。

ダイアログ・イン・サイレンス 静けさの中の対話



Voice

体験者の感想



ちゃんと理解できているのか心配でしたが、少しずつ意思疎通ができているような気持ちになってきました。あらためて、方法はなんでもよくて、お互いに伝えあおうとすることが大切なだと気づきました。（30代・女性）



言葉があってもなくても、耳が聞こえても聞こえなくても、相手のことをよく見たり、受け取ろうとしているふるまいをお互いにすることが、対話をするうえで大事なことであるということ（男性）

心がはねて  
心がゆれて  
心がはじけて  
心ふるえる  
手が心を伝える 身体が気持ちを伝える  
そんな時間でした。（50代・女性）

言葉にならないということは、決して何も言わないということでなく、言葉がないからこそその大きな力を生み出すことを実感しました。  
さまざまな表情、形を生み出すこと。  
そして、生み出したものが自分の気持ちを変えていくこと。  
さらに相手の気持ちをも変える力を持っていることを改めて知りました。  
特に笑顔の力は平和の未来を生み出す力になることを実感できありがたかったです。（50代・男性）



05/10

# DIALOGUE WITH TIME

## 未来に会いに行こう。

DIALOGUE  
WITH  
TIME™

歳を重ねることについて考えながら、  
生き方について対話する体験型エンターテイメント、  
それが「ダイアログ・ウィズ・タイム」。

体験を案内するのは、人生を豊かに歩んでいる高齢者のアテンドです。  
戦後から現在まで、激しく時代が変化する中、  
どのように生きてきたのか。  
人生経験を共有し、世代を超えた対話により、  
自らのこれからを考えるきっかけを生み出します。  
2012年にイスラエルで開催されて以降、ドイツ、スイス、  
フィンランド、台湾、シンガポールでも 開催。  
日本では、2017年の3月に東京・外苑前会場にて1日限定の  
プレ開催し、2019年に短期開催しました。

新しい時代を、  
どう生きていくかを考える体験を、あなたも。

創設（2012）ドイツの哲学博士  
アンドレアス・ハイネッケ  
開催実績 イスラエル、ドイツ、スイス、  
フィンランド、台湾、  
シンガポール  
体験者数 100万人以上

日本開催  
(2017)1日限定開催  
(2019)短期開催  
体験者数 300人超※2022年3月末時点  
  
►2023年7月現在  
東京・竹芝「対話の森」にて2024年春開催予定

<https://dwt.dialogue.or.jp/>

私は今、年を取ることが不安です（それは自分の老化を感じたり、父母の姿を見たりして）。でもこうやって人生の先輩の話をたくさん聞きたいんだという事に気が付きました。こんなふうになりたい、こんなふうに生きたい、そんな先輩にたくさん逢いたいです。（20代・女性）

「人生は筋書きがないドラマ」と感じさせられました。このわずかな90分の間でしたが、ドラマを演じた気持ちになり、幸せな気分になりました。ありがとうございました。（60代・男性）



おとしよりになっても「何かをしたい」と言う気持ちを忘れないようにしたい。私は、少し歳をとることがこわかったけれども、このままの自分でいいんだと思いました（小6・女子）

高齢者をひとくくりにはできない。年齢を経た人間ひとりひとりが存在している（40代・女性）

とてもドキドキしながら”年齢”やバックグラウンドを越えた対話ができることに感動しました。これまで分からなかつた”年齢をかさねること”についてもう少し考えてみたい、今”高齢”にある人とも話してみたいという気持ちになりました。（30代・男性）

# BUSINESS WORKSHOP

ダイアログのビジネスワークショップでは、視覚をあえて排除することで、コミュニケーションの本質に立ち返り、チームとしての協力・協働の機会を生み出すことで、自己や他者の可能性に自律的に気付いていきます。

さらに、このワークを案内するのは特別にトレーニングを受けた視覚障害者。いつもは助ける側の彼らに「助けられる」経験は、固定化されがちな私たちの視点を広げてくれます。

チームビルディングやコミュニケーションを目的とした関係性構築や、レジリエンス力向上、多様性（D&I）理解を目的とし、これまで700社以上の企業・団体でご利用いただきました。「見えない」制約があるからこそ、それを超えた先に学びと革新があることを体感できる日本で唯一の研修プログラムです。

## Voice

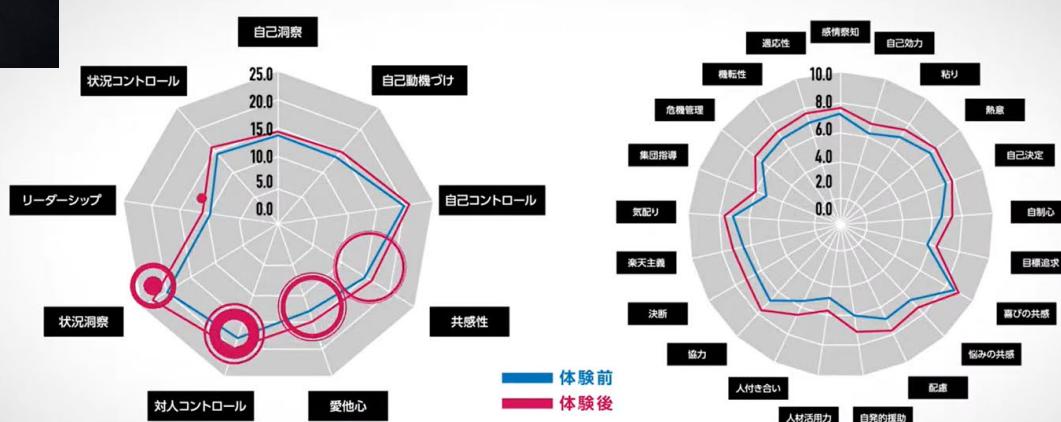
体験者の感想

チーム以外の人と横の関係性ができたことで、縦と横、両方つながれば、組織としてもっと強くなると思いました」(Y社)

リーダーシップに必要なのは『信頼されること』から『信頼すること』に、『目的を持つこと』から『共有すること』に変化した。自分軸から、相手軸に変わった(N社)

どんなことがあっても前を向いて進んでいける仲間だと思いました(I社)

ワークショップ体験後に、EQの全項目でスコア改善を確認



特に「他者対応」「状況対応」領域で大きくスコアを伸ばす

# DIALOGUE DIVERSITY LAB

視覚・聴覚障害者の強みのひとつに、五感のひとつを閉ざすことで他の感覚の解像度が高まることがあげられます。

2030年のSDGs目標達成に不可欠なユニバーサルデザインやダイバーシティ&インクルージョンの視点はもちろんのこと、「障害者だからこそ」持ちうる感性とダイアログで培われた丁寧な対話から、視覚・聴覚障害者アテンドとともに新しい発想や着眼点を探り、組織と社会に還元していきます。



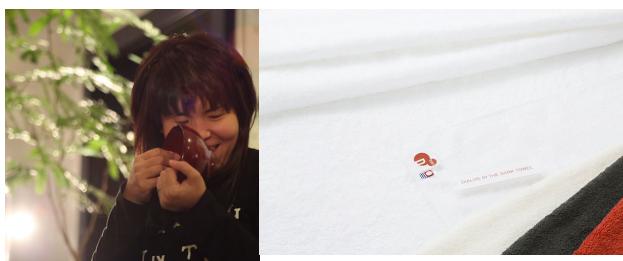
## ■施設コンサルティング

某ホテルの新規オープン時における、ユーザビリティやアクセシビリティなどに関するコンサルティングを実施。実際に足を運び、施設や商品のハード・ソフト面の改善のお手伝いを実施しました。



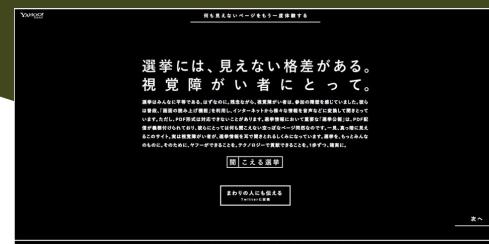
## ■YouTube企画「盲点からのアプローチ」

視覚障害者ならではの視点の共有は、私たちの日常に埋もれてしまいがちな、ハッとする発見にあふれています。自分だけでは見えない視点、見落としてしまう「盲点」を目の見えない人とともに見つけていくオンライン企画です。



## ■伝統工芸とのコラボレーション商品

会津漆器の職人や今治タオルのメーカーとコラボレーションし、視覚障害者だからこそその感性を生かし、商品開発を行っています。



## ■Yahoo! JAPAN 「聞こえる選挙」

国政・地方選挙に際して発行される選挙公報は、PDF形式でも配布されますが、視覚障害者が利用する読み上げソフトに対応していないため、選挙に参加しづらい状況が続いていました。

その課題を解決するためYahoo! JAPANが公開した「聞こえる選挙」に監修として参加しました。



## ■学校向け講演会

視覚障害者・聴覚障害者が実際に赴き、出会ってもらいうながら、ダイバーシティや共生社会について考えていただく講演を実施しています。

また、企業向けにイノベーションをテーマとしたトークセッションなども可能です。

## その他、

- ・企業向けのイノベーションに関する講演会やトークセッション
- ・暗闇や静寂を利用しての商品体験や商品発表なども実施

# FOR KIDS & TEENS

体験と遊びを通して、自己と他者を認め、  
多様な人と関わりあうことの楽しさと豊かさを感じる

「学年とか、今まで話したことがないとかで決めつけたりすることがなくて、みんなで笑いあって楽しんだ。」

世界のダイアログは学校教育の一環として利用され、体験者のうち60%がこどもです。でも、日本にはその仕組みがないために、たったの3%。

世界では、ダイアログを体験したことのある子たちに良い変化をもたらすことが明らかになっています。日本でも2018年度より体験前後の効果測定を行った結果、自己肯定感や自己有用感の向上、多様性や障害者への肯定的な意識の変化、他者への共感力などにポジティブな変化が起きてきました。

対話する力、探究する力を遊びながら感じられるのが、ダイアログ体験です。  
私たちは、こどもたちに驚きに満ちた体験をたくさんしてもらい、  
次世代へのバトンを引き継いでいきたいと考えています。

みみが聞こえなくても、  
友だちになれるんだと思いました。  
またダイアログ・イン・サイレンスに  
いきたいと思います。  
(サイレンス体験・小4)

体験することで、手とかを使えば  
話せると言うことが考えがかわった  
大変だとおもっていた手話も、  
やってみれば楽しかったし、  
どうじに、  
ちょうどかくしょうがいの方へも  
好感が持てた  
(サイレンス体験・小4)

まっくらの中で、目の見えない人に助けてもらった。  
駅で時どき見かける白いツエをついている人に  
今度声をかけてみようと思った。  
でもその前に電車の中で立っているお年寄りに席を  
ゆずれた。僕は少し恥ずかしい気持ちから  
脱出できたんだと思う。ダイアログには人を変える  
力がある。 (ダーク体験・小4)

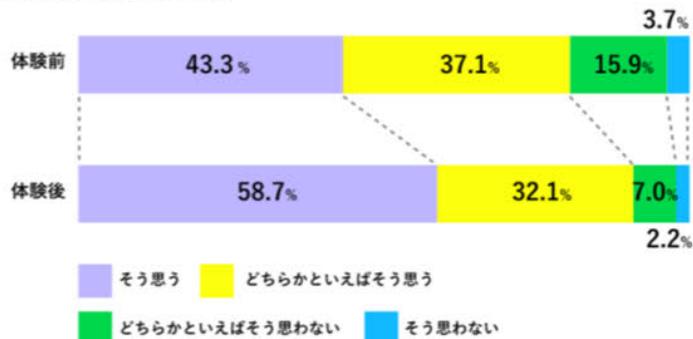


暗やみの中でドキドキしていたら、アテンドの人から、  
となりの人と手をつないで歩くといいよと言われた。  
手をつないだ子は、いつもはきらいな子なのに、  
その子の手はやわらかくて温かかった。ちょっと好きになれて、もっと仲良くしたい気持ちになった。  
でもどうしてアテンドは私がこわかったことを  
知っていたのかがナゾ。 (ダーク体験・小5)

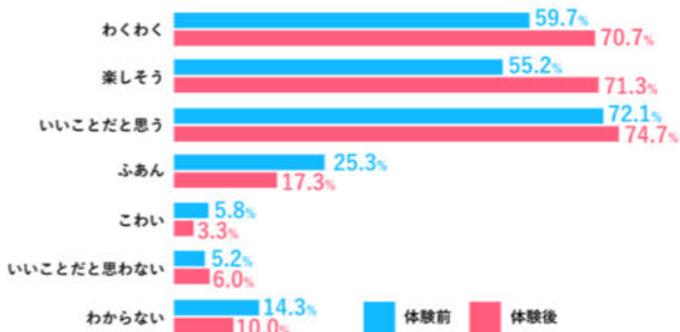


# 体験により、自己肯定感や自己有用感の向上、多様性理解、共感力にポジティブな変化がありました

自分自身に満足している



自分たちとは文化やとくちようがちがう人とふれあうことについて、あなたはどのように思いますか。



こども5000人プロジェクト

体験者総数

1745名

2023年7月現在

## 【2013年度】

- ・公益財団法人こうべ市民福祉振興協会後援  
神戸市内の小学校4年生254名が体験

## 【2014年度】

- ・同上 神戸市内の小学校4年生379名が体験

## 【2016年度】

- ・佐賀県との協働型委託事業 県推進子育てし大県『さが』の一環として  
佐賀県内小学校11校の3~5年生812名が体験
- ・東京都オリンピック・パラリンピック教育推進の一環として  
東京都渋谷区の小・中学生206名が体験
- ・埼玉県立特別支援学校塙保己一学園にて開催

## 【2017年度】

- ・同上 佐賀県事業の一環として  
佐賀県内小学校11校の3年~5年生が体験
- ・同上、東京都オリンピック・パラリンピック教育推進の一環として  
東京都渋谷区の小・中学生225名が体験
- ・文部科学省「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解  
(心のバリアフリー) の推進事業」の一環として  
熊本県立第二高校の生徒80名が体験

## 【2018年度】

- ・同上 佐賀県事業の一環として  
佐賀県内小学校11校の3年、4年、5年生が体験

## 【2019年度】

- ・文部科学省「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解  
(心のバリアフリー) の推進事業」の一環として  
静岡県立沼津視覚特別支援学校にて230名が体験
- ・東京都副校長会会議にて、ショート体験を開催

## 【2020年度】

- ・萩生田文部科学大臣がダイアログ・ミュージアムを視察。サイレンスを体験

## 【2021年度】

- ・TBS系SDGsプロジェクト『地球を笑顔にするFESTIVAL～オンライン～』にて特別オンラインプログラムを開催
- ・「こども5000人たいけん」プロジェクトスタート

# 人材雇用・育成

見えないも、聞こえないも、歳をとるも、すごい能力に変えることができるんです。

20年間にわたり対話のプロフェッショナルを養成してきたダイアログのノウハウと、各専門分野で活躍する講師陣による講義・ワークショップ（約4ヶ月、全12回）から、「対話を通じて社会を変える」変革者を目指すためのスクールを開講しました。

ダイアログのアテンドを目指す方はもとより、学生の方、企業や行政に所属しながらコミュニケーションスキルを磨き仕事に役立てたい方、新たな時代に広く社会で活躍されたい方向けの講座です。

見えない・聞こえない・高齢者が、経験を活かし豊かな社会へと変えていくチェンジメーカーに。公式なダイアログアテンドを目指すだけでなく、組織の中でのコミュニケーションを促進する、広く社会で活躍する、新たな能力開発を目指すためのスクールです。

2018年6月25日朝日新聞朝刊でのメッセージ広告：  
<https://attend-school.dialogue.or.jp/pdf/paper.pdf>

開催実績：

2018年8月開講 ダークコース第一期

2018年12月開講 サイレンスコース第一期

2021年7月開講 サイレンスコース第二期

※第二期サイレンスコースは日本財団の助成の下、「企業で働く聴覚障害者」を対象とし実施

2018年8月開講 ダークコース第一期

2018年12月開講 サイレンスコース第一期

2021年7月開講 サイレンスコース第二期



# 求む。

見えないも、聞こえないも、歳をとるも、すごい能力に、  
変えることができるんです。

より多くの方たちと一緒に、より多くの方たちを支援する、日本をめぐる「ダイアログ・アテンドスクール」を運営するダイアログ・ジャパンソサエティ。今回の企画は、「見えないも、聞こえないも、歳をとるも、すごい能力に、変えることができるんです。」のキャッチフレーズを元に、日本で活動する「見えないも、聞こえないも、歳をとるも、すごい能力に、変えることができるんです。」の活動家たちが登壇する、これまで開催された企画を振り返る、新しい時代のロードマップをつくります。これまで多くの人に見て貰う機会をうなぎのように重ねてきました。何よりも、人から見て、人の本音が見えてくるからです。私たちが見ていて、おもしろいと思ったら、だらんとして、それがどのくらいおもしろいのかを書くくらいの必要なものばかりです。何よりも、おもしろいと思ったら、それをそのまま伝えてくるのが、自分たちの目的でした。2020年、私たちもまた、これまでの自己紹介、アテンドの説明、質問などの流れをそのまま継続していきます。しかし、これまでの流れでいつまでも同じことになるとつまらないから、アテンド自身的に今までの「ダイアログ・アテンドスクール」の内実を語り、そして、ダイアログ・イン・ザ・ライム、あるいは、アテンドの基礎知識から、ついでアテンドとして活動する上での課題とともに、自分の成長を、新しい時代のロードマップをつくります。もちろん、何よりも、これまでの「見えないも、聞こえないも、歳をとるも、すごい能力に、変えることができるんです。」の活動家たちの意見をまとめてみる必要があります。

2019年秋、「ダイアログ・アテンドスクール」ダークコース開講。  
「ダイアログ・アテンドスクール」の申し込みは「ダイヤログアテンドスクール」  
2020年内、「ダイアログ・ミュージアム」オープン。

受講条件	いわれて いる方
<input type="checkbox"/> 視覚障害者	<input type="checkbox"/> 聴覚障害者
<input type="checkbox"/> 70歳以上の高齢者	

Dialogue Japan Society

一般社団法人ダイアログ・ジャパンソサエティ



ダイアログの活動を支えてくださる  
皆様へご挨拶をいたしました。

ダイアログ・ソサエティの活動を支えてくださる  
皆様へご挨拶をいたしました。

## Voice

参加者の声

自分の感情がもっともっと表情として  
できるようになり、前より自分が好きになっ  
て、相手の目を見て笑顔で対話  
する自分がいることに気づきました。  
また、自分が社会を変革する触媒  
としてどうられるかどうか考える  
ようになりました。（サイレンス）



# 調査・研究

対話や視覚・聴覚障害者に関する調査研究を行っています。コロナ禍においては視覚障害者・聴覚障害者が抱える困難に関する実態調査を複数回行い、その困難・不便を捉え社会に発信しました。それに加え、さらにこうした困難に直面した彼らの工夫や知恵こそが、これから社会課題解決へのヒントとなると考えています。単なる調査のみならず、社会変革に向けた提案も併せて行っています。

調査実績：

►2020年4月

在宅長期化に伴う視覚障害者・聴覚障害者が抱える困難に関する実態を把握。

特に、生活面・情報取得の面や、コミュニケーションに関する事項を調査

►2020年10月

コロナ禍における「新しい生活様式」下での視覚障害者・聴覚障害者の課題・機会・可能性に関するアンケート調査および「だれもが置いてきぼりにならない」新しい生活様式を提案

►2021年1月

第三回コロナ禍における聴覚障害者の生活実態を調査。特にオンラインに着目し、その困難と解決法を提案

# SDGsへの取り組み

ソーシャルエンターテイメントや企業研修、こども向けプログラムをはじめとする

各事業を通して「誰一人取り残さない」社会を目指し、活動をしてきました。

今後はさまざまなステークホルダーとともに下記目標を掲げながら持続可能な社会づくりに  
よりいっそう貢献します。



innovative  
新しい価値を創る  
communicative  
関係性を構築する  
diversity & inclusion  
多様性を理解し、活かす



# DIALOGUE SUPPORTERS



## ご支援の方法

### ふるさと 納税

佐賀県へのふるさと納税を通じて、  
実質無料でダイアログのご活動を  
ご支援いただけます。  
[https://didsaga.dialogue.or.jp/  
furusatonouzei/](https://didsaga.dialogue.or.jp/furusatonouzei/)

### マンスリー サポーター 「森の住人」

毎月のご支援（月1,000円～）で  
「森の住民」としてダイアログを  
ともに育てていただけます。  
特別イベントなども実施して  
おります。  
<https://djs.dialogue.or.jp/supporter/>

### ワンタイム サポート

1回のみのご寄付でも  
ご支援いただけます。

### 企業・団体 パートナー

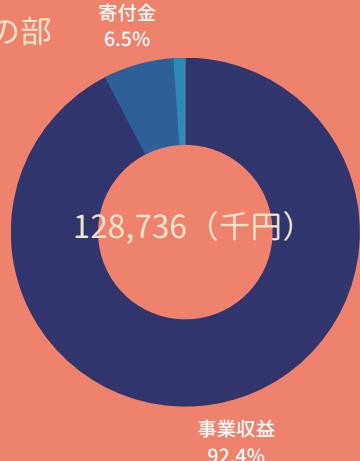
ご協賛のみならず、社会課題  
解決に向けてプロジェクトを  
ともにしたり、こどもたち向  
けのプログラム開発など、さ  
まざまなかたちでパートナー  
となってくださる企業・団体  
を募集しています。

### 体験と クチコミで 応援する

まずはぜひ、ダイアログ・  
ダイバーシティミュージアム  
「対話の森」でご体験く  
ださい！ご感想をご友人や  
SNSで広めていただくこと  
も、私たちの大きなチカラ  
になります。

## 収支報告

### 収入の部



### 支出の部



# DIALOGUE SUPPORTERS

## アンバサダーのみなさま

赤司 展子（ウィーチュタインズ代表）  
石橋 京士（弁護士）  
一木 典子（株式会社オレンジページ代表取締役社長）  
伊藤 詩織（ジャーナリスト、映像作家）  
伊藤 美歩（Music Dialogue理事、事務局長）  
岩井 瞳雄（日本たばこ産業株式会社 代表取締役会長）  
大胡田 誠（おおごだ法律事務所代表/元ダイアログ・イン・ザ・ダークアテンド）  
乙武 洋匡（作家）  
表 輝幸（東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 事業創造本部副本部長）  
川崎 義弘（サウンドアーティスト）  
國井 修（世界基金投資効果戦略局長、医師）  
小島 慶子（タレント・エッセイスト）  
後藤 千絵（ノックス岐阜代表理事）  
駒崎 弘樹（認定NPO法人フローレンス代表理事）  
佐藤 大吾（あしなが育英会理事）  
鈴木 欽（ジャーナリスト/フジテレビ解説委員）  
高橋 政代（株式会社ビジョンケア 代表取締役社長）  
高橋 ゆき（株式会社ベアーズ取締役副社長）  
瀧口 徹（弁護士）  
寺尾 のぞみ（NPO法人ミステリオ代表）  
花岡 洋行（あしなが育英会事務局次長）  
早川 明伸（弁護士）  
船橋 力（文部科学省「トビタテ！留学JAPAN」ディレクター）  
古田 大輔（ジャーナリスト、メディアコラボ代表）  
堀内 勉（多摩大学社会的投資研究所教授）  
本田 武弘（双日株式会社 常勤監査役）  
松森 果林（ユニバーサルデザインコンサルタント/ダイアログ・イン・サイレンス アテンド）  
松崎 丈（国立大学法人 宮城教育大学 准教授）  
松中 権（グッドエイジングエールズ代表、LGBTQアクティビスト）  
三宅 琢（公益社団法人 Next Vision ネクストビジョン 理事）  
宮本 聰（株式会社リビルド社会貢献部長）  
宮城 治男（NPO法人ETIC.代表理事）  
安済 聖司（アクサ生命保険株式会社 代表取締役社長）  
油井 元太郎（モリウミアス代表）  
米倉 誠一郎（一般社団法人Creative Response-Social Innovation School 学長）  
渡辺 由美子（NPO法人キッズドア理事長）  
若林 直子（PRコンサルタント）  
志村 季世恵（一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ代表理事）  
志村 真介（ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン Founder）他（敬称略・五十音順）

## サポーター企業のみなさま

特別協賛



協賛

子どもたちに誇れるしごとを。



ベネッセホールディングス

特別協力



協力



後援



# 団体概要

所在地 東京都港区海岸1-10-45 アトレ竹芝シアター棟1階  
設立 2011年11月25日  
代表理事 志村 季世恵  
URL <https://djs.dialogue.or.jp/>

## 特別顧問

前田 匡史（国際協力銀行 取締役会長）

## 理事

岩井 瞳雄（日本たばこ産業株式会社 代表取締役会長）  
及川 美紀（株式会社ポーラ 代表取締役社長）  
大胡田 誠（弁護士、おおごだ法律事務所）  
堀内 勉（多摩大学社会的投資研究所教授）  
本田 武弘（双日株式会社 常勤監査役）  
藤森 義明（株式会社LIXILグループ 相談役）  
安済 聖司（アクサ生命保険株式会社 代表取締役社長兼CEO）  
志村 真介（ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンFounder）

監事 鵜澤 秀彦（鵜澤税理士事務所）

## 目的

我が国の社会、地域、企業、学校、家庭においてコミュニケーションロスにより社会資本である人の可能性が低下しており、それぞれの文化や立場の違いを相互理解する対話がいま最も必要とされていることにかんがみ、誰もが対等に対話することで協力し信頼し安心して社会参加ができるようにし、もっとより豊かで多様性のある社会の形成及び発展に寄与することを目的としています。

## 事業内容

- ・対話、五感及び異文化コミュニケーションに関する調査・研究事業
- ・対話、五感及び異文化コミュニケーションに関する各種セミナー・講演・ワークショップ・出版等による普及啓蒙事業
- ・対話の場を創出するための事業
- ・対話を促進するファシリテーターの育成に関する事業
- ・障害者の社会参加に必要な自立、能力向上に関する事業
- ・その他この法人の目的を達成するために必要な事業

# 事業体制

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティは、Dialogue Social Enterprise GmbH (CEO: アンドレアス・ハイネケ博士) より日本で唯一「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」「ダイアログ・イン・サイレンス」「ダイアログ・ウィズ・タイム」のライセンスを受けています。

一般社団法人  
**Dialogue Japan Society**



# 沿革

1999.11 黎明プロジェクト／東京ビッグサイト< DID >  
2000.5 ジーベックホール／神戸< DID >  
2000.12 東北芸術工科大学< DID >  
2001.10 せんだいメディアテーク／仙台< DID >  
2002.6 Workshop in SRL < DID >  
2002.11 東京ドイツ文化センター／東京 < DID >  
2003.8 パークタワーホール／東京 < DID >  
2003.10 Showcase in 宮城県立盲学校 < DID >  
2003.11 Showcase in 慶應義塾大学 SFC< DID >  
2003.11 Showcase in はこざき  
　　『くらやみやけん、みえるとよ。< DID >

2004.3 Workshop for Children 「CAMP」 大川センター／京都< DID >  
2004.7 DID2014／東京< DID >  
2004.11 Showcase in 慶應義塾大学 SFC < DID >  
2005.2 Showcase in 立教大学  
2005.3 Showcase in 北方圏学術情報センター／札幌 < DID >  
2005.8 Showcase in ジーベックホール／神戸< DID >  
2005.10 D-HAUS・旧自治大学キャンパス／東京 < DID >  
2005.11 Workshop for Children こどもの城／東京 < DID >  
2006.2 Dior Gaucho x Dialog in the Dark < DID >  
2006.6 Workshop for Children こどもの城／東京< DID >  
2006.8 DID2016／東京 < DID >  
2007.9 「学校の放課後」旧赤坂小学校／東京< DID >  
2006.10 Showcase in 横浜市立盲学校 < DID >  
2008.8 学士会館／東京< DID >  
2008.10 日本科学未来館／東京< DID >  
**2009.3 東京・外苑前常設会場オープン < DID >**  
2012.3 東日本大震災復興 Showcase in 福島・郡山  
　　(英国フィッシュ財団助成) < DID >  
**2013.4 積水ハウス(株)共創プロジェクト 「対話のある家」大阪会場オープン < DID >**  
2013.10 Showcase in 神戸しあわせの村< DID >  
2014.11 Showcase in 神戸しあわせの村< DID >  
2015.8 Workshop for Children 佐賀  
　　(佐賀県協働型委託事業) < DID >  
2016.7 渋谷区立の小・中学校にて  
　　オリンピック・パラリンピック教育に導入< DID >  
2016.8 Showcase in 大分  
　　(大分県生活環境部同和・人権対策課主宰)< DID >  
2016.9 Workshop for Children 佐賀  
　　(佐賀県協働型委託事業) < DID >  
2016.11 Showcase in TOKYO SOCIAL FES  
　　(東京都福祉保健局主宰) < DID >  
2016.12 Showcase in 埼玉県立特別支援学校  
　　塙保己一学園< DID >

2016.12 ダイアログ・ウィズ・タイムプレ開催 < DWT >  
2017.8 ダイアログ・イン・サイレンス初開催< DIS >  
**2017.8 東京・外苑前常設会場クローズ < DID >**  
2017.8 クラウドファンディング挑戦  
2017.11 Showcase in 東京都文京区  
　　地域支援フォーラム< DID >  
2017.12 Workshop for Children 熊本 (学校に  
　　おける交流及び共同学習を通じた障害者  
　　理解(心のバリアフリー)の推進事業) < DID >  
2018.1 Showcase for 2020 Tokyo 「暗闇で感じる  
　　日本文化」(内閣官房オリンピック・  
　　パラリンピック推進本部事業局委託事業) < DID >  
2018.2 「来た KITA オリパラプロジェクト」  
　　／東京・北区< DID >  
2018.4 ニコニコ超会議 2018 出展< DID >  
2018.6 Workshop for Children 佐賀  
　　(佐賀県協働型委託事業) < DID >  
2018.6 クラウドファンディング挑戦、達成  
2018.6 朝日新聞にメッセージ広告を掲出  
2018.8 ダイアログ・イン・サイレンス短期開催  
2018.8 ダイアログ・アンドスクール ダーク第一期開講  
2018.9 人事院公務員研修所向け  
　　3年目職員研修実施< DID >  
2018.10 Showcase in 金沢 21世紀美術館／石川< DID >  
2018.11 Workshop for Children 佐賀  
　　(佐賀県協働型委託事業) < DID >  
2018.12 ダイアログ・アンドスクール サイレンス第一期開講  
2019.2 「来た KITA オリパラプロジェクト」  
　　／東京・北区< DID >  
2019.4 ニコニコ超会議 2019 出展< DID >  
2018.8 ダイアログ・イン・サイレンス短期開催  
2018.8 ダイアログ・ウィズ・タイム短期開催  
2019.9 人事院公務員研修所向け  
　　3年目職員研修実施< DID >  
**2019.11 三井ガーデンホテル神宮外苑の杜  
　　プレミア内「内なる美、とのう暗闇。」常設  
　　常設会場オープン< DID >**  
2020.3 ダイアログ・イン・ザ・ダーク  
　　オンラインスタディ初開催< DID >  
**2020.8 ダイアログ・ミュージアム「対話の森」オープン**  
　　世界初の「ダイアログ・イン・ザ・ライト」開催  
2020.10 ダイアログ・イン・サイレンス」初・都内小学校への  
　　出張開催  
2020.9 マンスリー サポーター「森の住民」発足  
2020.11 YouTube番組「盲点からのアプローチ」開始  
2020.12 「ダイアログ・イン・サイレンス」開催  
2021.2 「エア・カフェ」開催  
**2021.4 ダイアログ・ダイバーシティミュージアム  
　　「対話の森」に名称変更**  
2021.10 「対話の森 こども5000人たいけんプロジェクト」開始  
2021.11 「会津漆器・イン・ザ・ダーク」開催  
2022.1 「唐津焼・イン・ザ・ダーク」開催  
　　「ラブ・イン・ザ・ダーク」「ラブ・イン・サイレンス」開催  
(2022年3月以降はp.3～参照)

# 主な受賞歴

※2011年以前はNPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンが主体

- 2004** (社)日本イベント産業振興協会主催 日本イベント大賞特別賞・社会貢献賞受賞並びに  
TBSラジオ&コミュニケーションズ社長賞受賞
- 2005** 「まっくらやみの中の対話」がグッドデザイン賞 ユニバーサル賞受賞 
- 2008** 目を使わないアテンドの豊かな感性を活かし協働開発した  
「ダイアログ・イン・ザ・ダークタオル」でグッドデザイン賞受賞 
- 2011** 団体代表理事・志村季世恵が「第1回社会イノベータ公志園決勝大会」  
にて審査委員特別賞、会場票第一位を受賞 
- 2014** 積水ハウスとの共創プログラム・住ムフムラボ「対話のある家」が  
「IAUDアワード2014」において“IAUDアワード賞”を受賞 
- 2015** 目を使わないアテンドの豊かな感性を活かし協働開発した会津漆器  
「めぐる」でグッドデザイン賞・ウッドデザイン賞受賞 
- 2016** 社会デザイン学会奨励賞受賞 
- 2017** ダイアログ・イン・ザ・ダークおよびダイアログ・イン・サイレンスがbeyond2020  
プログラムとして認証
- 2020** 「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞 
- 2021** アトレ竹芝店「ベストオブアトレ」受賞

# 書籍



## 暗闇から世界が変わる ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンの挑戦 志村 真介 (講談社現代新書)

ある日出合った新聞の囲み記事を読み、最初はひとり、まったく手探りの状況で、社会を変える挑戦が始まりました。すべての肩書き、立場から自由になれる「暗闇での対話」から、人間関係の意識も変わっていくのです。



## まっくらな中での対話 茂木 健一郎 with ダイアログ・イン・ザ・ダーク (講談社文庫)

ダイアログ・イン・ザ・ダークの真っ暗闇の空間へ、視覚障害者のアテンドスタッフに導かれ、おずおずと入っていく参加者は、視覚が遮断されることによって、それ以外の感覚が解放される心地よさに気づきます。暗闇で癒される脳と心の謎に茂木健一郎氏が志村季世恵やアテンドスタッフとの対談を通して迫ります。



## さよならの先 志村 季世恵 (講談社文庫)

いのちの終わりが迫った人が、大切な人に残す「最後のメッセージ」。自分が死んだ後も、家族や恋人を支え続けられる言葉とは何か…多くの末期がんの方々に寄り添い、ただ死をとする、そのお手伝いをしてきたセラピスト志村季世恵によるエッセイ集。



## いのちのバトン 志村 季世恵 (講談社文庫)

大きな苦しみを抱えて孤独に陥った人のかたわらで、そっと耳を傾け、人や自然とのつながりを心に取り戻したり、悩みに支配された心の中の整理整頓を手伝うバースセラピストの、奇跡のエッセイ集。



## DIALOG IN THE DARK－暗闇の中の対話－みるということ ダイアログ・イン・ザ・ダーク (小学館)

すべてを「見える化」する今、目で見る情報の渦の中で感覚が麻痺していませんか？暗闇の中の対話を通じて感覚の在処に気づくことができます。



## エールは消えない－いのちをめぐる5つの物語－

バースセラピスト・志村季世恵による、めぐるいのちを描いた珠玉のエッセイ集。DIDアテンドの子育ての話、最期と共に過ごした樹木希林さんとのこと、自身の母を見送った話を含め、5つの多様な家族の物語。



## 「暗闇ラジオ対話集 - DIALOGUE RADIO IN THE DARK -」

J-WAVEで放送している「DIALOGUE RADIO IN THE DARK」の書籍化。心が丸裸にされるダイアログ・イン・ザ・ダークの真っ暗闇で収録された中から、各界の著名人と志村季世恵との対話17編をテキスト化して掲載。明日を生きるヒントがこめられています。巻末にはDIDアテンド、ニノとはちとの対話も収録。

# メディア掲載例（一部）



余計な情報なく  
モノの本質把握

日本ダイバーシティ推進会議の久保代治委員長は、「(訓練の)もうひとつの目的は、障害者たちの運び。コミュニケーションが何よりもなり、体験の過程で情報開かせること」があると語る。

その結果が現れていた。人気者たちの見習いが、いよいよ本質的把握につながった。

私は、訓練開始で明るい人、一つひとつが頭をくらべて話をしている。暗闇は「おお」と感動する。だからこそ「どうぞ」と心をこめて話をしたくなる。そして、その人に感謝している。暗闇は「人とのつながり」を感じ、感謝している。暗闇は「人とつながる安心感」を抱く。反射も失くしてしまっている。

（出所）伊藤千子著『アーバンカーネーション』

見えない、聞こえない 世界を体験

くらやみカフェ 味や音に集中

（出所）伊藤千子著『アーバンカーネーション』

五感を活かした  
研修の試み

記者ルポ 声掛け合つ存在あ

ターゲットアプローチ、信頼、その中は多様な視覚障害者が、自分の音を身につける。しかし、多くの人々の心をもつた、耳に届きやすくなる。

「（研修の）室内は必ずある視覚障害者の、人といふ人が交わる共生社会へのヒントでもある。（時野洋介）」

（出所）中日新聞東京本社編「第1回 東京新聞」

幕が開く 今夜、寺尾伝説誕生の瞬間

読みしテレビへ！

読者とともに 紙へのご意見をお聞い合わせる

電話 03-6910-2201

E-mail 03-6933-1723

FAX 03-3595-6935

書道部編集室

「脱力道場」

イラストレーター 小近裕美子の

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」冬の章

再び訪れた、「見える」第六感の衝撃

暗闇で開催あるある神話体験をもう一度！



# メディア掲載例（一部）

小島慶子の幸福のススメ！  
言葉に頼らない音のない世界

8月20日まで東京・新宿で開催されている「ダイアローグ・イン・ザ・サイレンス」。その見どころを紹介する。音を遮断するヘッドセットを装着して、音楽鑑賞や映画鑑賞など、通常では聴こえない世界を体験することができる。会場には7つの部屋があり、異なる体験コーナー。「音が聞こえていたから」とか「音が聞こえなくなったから」とか、自分の感覚を語る人が多い。

音のない世界で、隠された世界を発見する。音を遮断するヘッドセットを装着して、音楽鑑賞や映画鑑賞など、通常では聴こえない世界を体験することができる。会場には7つの部屋があり、異なる体験コーナー。「音が聞こえていたから」とか「音が聞こえなくなったから」とか、自分の感覚を語る人が多い。

音のない世界、隠された世界 静けさの中で「対話」

音のない世界で、隠された世界を体験するイベント「ダイアローグ・イン・ザ・サイレンス」が東京・新宿で8月20日まで開催されている。音を遮断するヘッドセットを装着して、音楽鑑賞や映画鑑賞など、通常では聴こえない世界を体験することができる。会場には7つの部屋があり、異なる体験コーナー。「音が聞こえていたから」とか「音が聞こえなくなったから」とか、自分の感覚を語る人が多い。

音のない世界で、隠された世界を体験するイベント「ダイアローグ・イン・ザ・サイレンス」が東京・新宿で8月20日まで開催されている。音を遮断するヘッドセットを装着して、音楽鑑賞や映画鑑賞など、通常では聴こえない世界を体験することができる。会場には7つの部屋があり、異なる体験コーナー。「音が聞こえていたから」とか「音が聞こえなくなったから」とか、自分の感覚を語る人が多い。

## ダイアログ・ウィズ・タイム

77歳の元芸者で、シングルマザーの半生と教え。

「芸者になつたから、好きな人ができました」。どんな半生を過ごしてきたのか。歳を重ねることをどう思うのか。

Kenji Suya  
BuzzFeed News Reporter, Japan

Be one of the first to comment ↓

歳を重ねることは、ネガティブなことばかりではない。人生において実りあることでもある。そう教えてくれる人たちはいる。

視覚障害者で聴覚障害者の世界を体験するイベントを開いている「ダイアログ・ジャパン・ソサイエティ」が主催する「ダイアログ・ウィズ・タイム」。

そのイベントは、70歳以上の高齢者によるアンケートに導かれ、体験者が老いや命について考え、新たな可能性を感じるというものだ。

70代になって、そのアンケートの仕事に挑戦した、せっちゃん(77)。どんな半生を過ごしてきたのか。歳を重ねることをどう思うのか。話を聞いた。

高齢者と語り、知恵学ぶ 老いへの不安取り除く催し

高齢者との対話を通じ、「歳を重ねること」を主とするプログラム「ダイアローグ・ウィズ・タイム」が開催される。参加者は70歳以上の高齢者と対話しすることで、参加者の年齢を重ねることへの不安を軽減していく。高齢者たちがこのように語る。日本での開催は初めて。約100人の参加者は日本で集まった3人の高齢者の「知識」を学んだ。

高齢者たちが「いい媖子さん」と、室内園の高齢者たちとの間で、高齢者の「身近な話題」を交わす。高齢者たちは「身近な話題」を交わす。高齢者たちは「身近な話題」を交わす。

高齢者たちが「いい媖子さん」と、室内園の高齢者たちとの間で、高齢者の「身近な話題」を交わす。高齢者たちは「身近な話題」を交わす。

参加者は脚や手におもりを行って、会員が聞き取にくくなるヘッドホンで高齢者の身動きを感知する。案内役の高齢者さん(77)がかるる「音を聞くと床の震動が感じにくく、耳も遠くなってしまうよ」との豪傑的癡情。

高齢者たちが「いい媖子さん」と、室内園の高齢者たちとの間で、高齢者の「身近な話題」を交わす。高齢者たちは「身近な話題」を交わす。

参加者は「苦肉」をもつて、次の部屋に移動。案内役の人から、訪問の趣旨や高齢者の活動、これまでの人生から学び取った教訓などを聞き、高齢者の表情をともに見守り合う。

「高齢者でないこともできるべきでやってみる」と、高齢さんはこれまでの人生から学んだ教訓を披露。「おかげでやせら世界が広がっている」と話した。下の歌を聴きながらおひらきを始め、色んな人々が笑顔でいるからうれしい。毎日歌を歌って、さらばの唄よりも胸騒がくなっているといつ「歌はない世界」を抱いて歩いた。

参加者は「苦肉」をもつて、次の部屋に移動。案内役の人から、訪問の趣旨や高齢者の活動、これまでの人生から学び取った教訓などを聞き、高齢者の表情をともに見守り合う。

ドイツ本部来日に際して

HEART & DESIGN FOR ALL

一步踏み込んで言葉を交わそう

谷口 真大さん

「見えない・聞こえない・歳をとる、から広がる世界。~DID創始者が日本にやってきた~

The Asahi Shimbun GLOBE+

見えない・聞こえない・歳をとる、から広がる世界。~DID創始者が日本にやってきた~

Andreas Huyke

「見えない・聞こえない・歳をとる、から広がる世界。~DID創始者が日本にやってきた~



# 創設者 アンドレアス・ハイネッケ ANDREAS HEINECKE

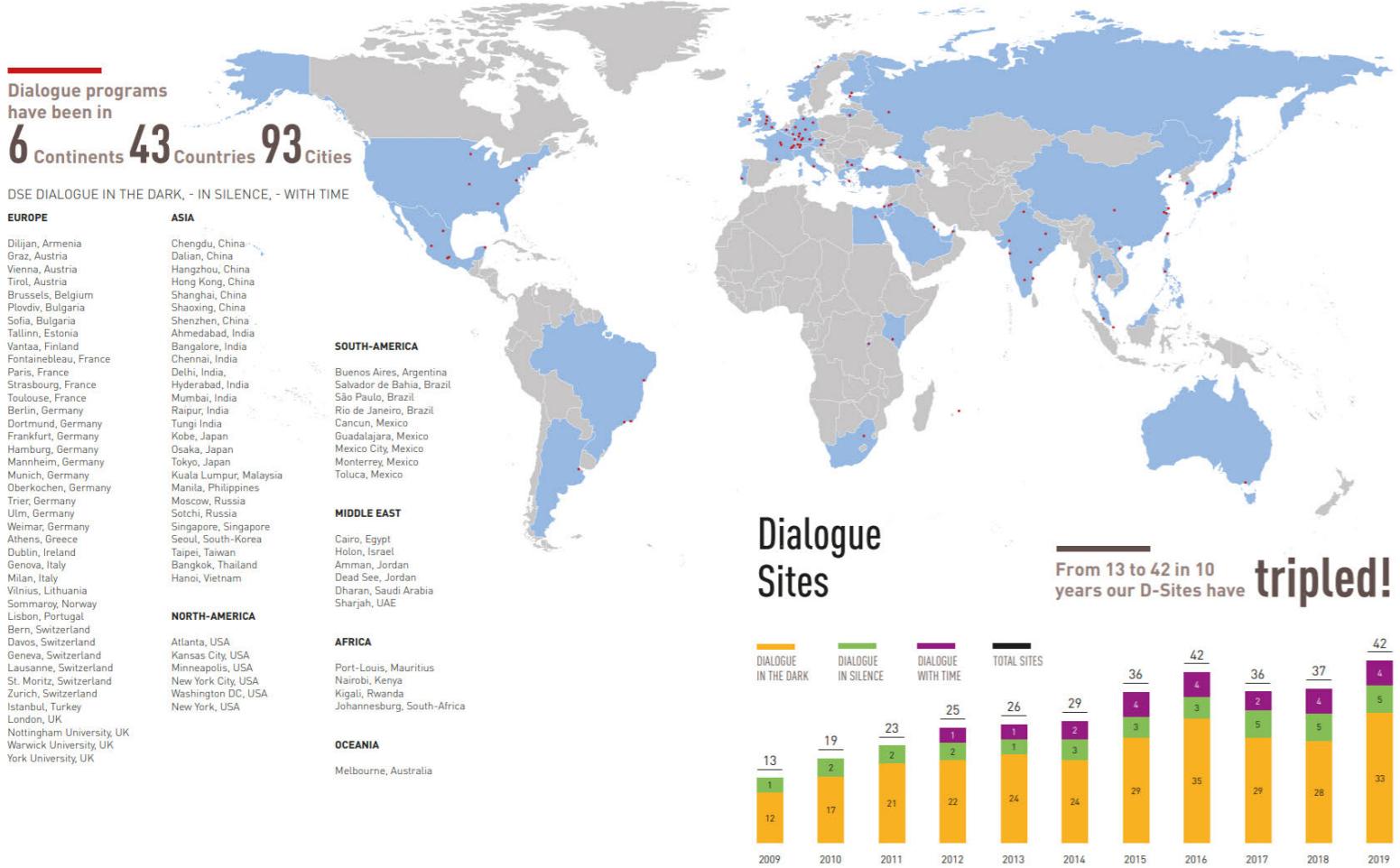


ダイアログ・ソーシャル・エンタープライズ 創設者兼 CEO  
1955年ドイツ生まれ。1988年にダイアログ・イン・ザ・ダークを開始。2005年に西ヨーロッパ初のアショカ・フェロー、2007年にシュワブ財団のグローバルフェローに選出※。  
2008年にダイアログ・イン・ザ・ダークをフランチャイズ方式で運営するダイアログ・ソーシャル・エンタープライズを創設。  
2011年からヨーロッパビジネススクール教授（ソーシャルビジネスコース）。社会起業家、哲学博士。

※アショカ・フェローは米国の社会起業支援非営利組織「アショカ」（Ashoka: Innovators for the Public）が認定するソーシャル・アントレプレナー。シュワブ財団は社会起業の促進等を目的に設立されたイスの非営利組織で、ダボス会議で知られる世界経済フォーラムを主催。

## 世界のダイアログ

### Dialogue Around the World





# Moving beyond difference



一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ  
東京都港区海岸一丁目10番45号 アトレ竹芝シアター棟 1F  
ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」  
[info@dialogue-japan.org](mailto:info@dialogue-japan.org)  
03-6231-1640